

〈隸書〉

有無
酒燈
何不
愁做
縮滿
脚心
眠夢

清原大龍先生書

(この課題で書体は自由。但し、この課題は一人一点のみとする)

半折作品は各課題ごとに横／＼に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉

有無
酒燈
何不
愁做
縮滿
脚心
眠夢

山本飛雲先生書

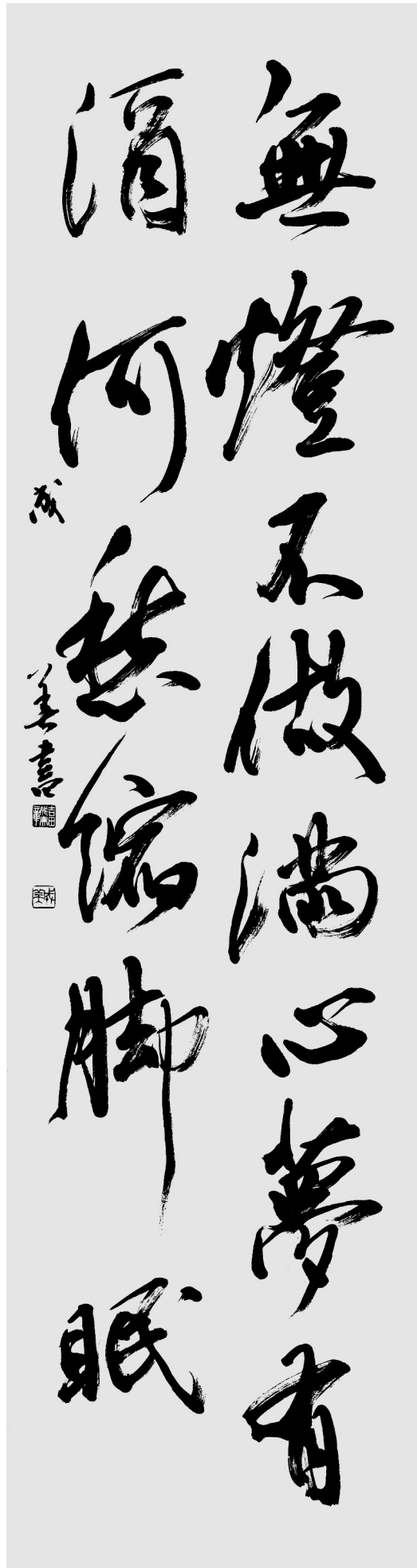
□ 灯無く做さず心に満つるの夢、酒有り何ぞ愁えん脚を縮めて眠る。

(唐伯虎)

次号予告「深山無化雪」

〈行書〉

吉田成美先生書



▽灯火がなければ満足するほどの夢は結ばれぬが、酒が有るから決して心配はない足をちぢめて眠る。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ あふことの多^{たえ}盈^えてしなく盤^は かな^か可^に二 人^みをも三^み越^をも う羅^ら身^み佐^さらまし 恨^らみ^みさ^さらまし
あふことの たえてしなくは かなかに 人をも身をも 恨みさらまし

△百人一首四十四▽

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

井之上 南岳先生臨

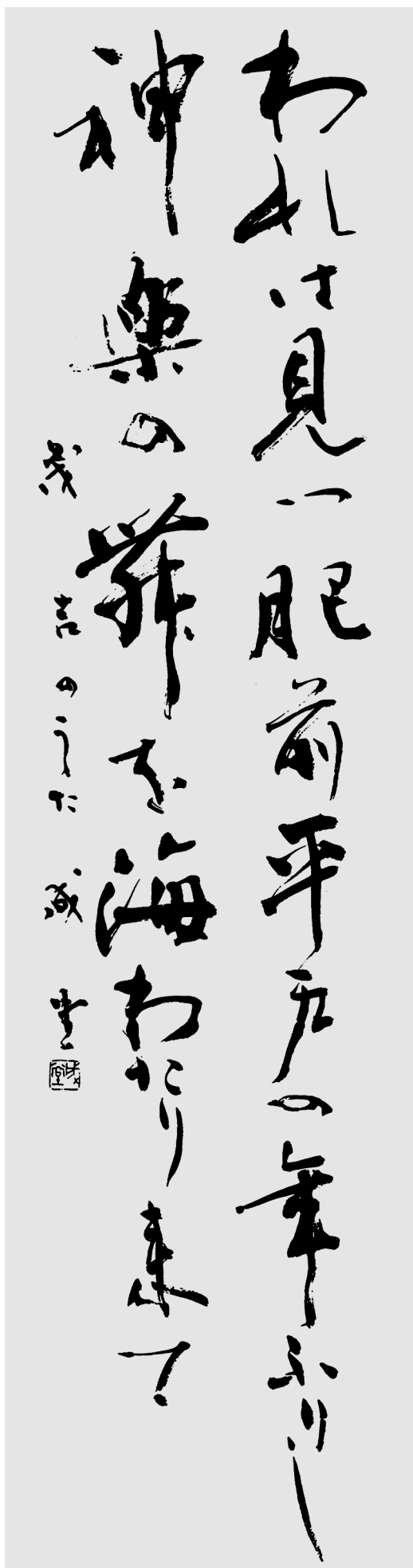


▽ 喪乱帖

喪亂之極先墓再離荼毒追惟酷甚號

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田 成堂先生書



□ 斎藤茂吉の歌 われは見つ 肥前平戸の年ふりし 神樂の舞を 海わたり来て

《手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横／＼に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折 $\frac{1}{2}$ 横のみ） —10月末日締切—

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

《手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。》



小 畠 秋 聲 先生

□ 俵 万智の歌

サ行音

震わすように

雨の中

遠ざかりゆく

君の傘

横の振幅と揺れを意識してみました。

懐の大きな

作品を期待

します。



吉 田 成 美 先生

□ 書樂

書を楽しむ

この夏は、記録的な猛暑かと思えば、秋雨前線の影響で、局地的な大雨。この日本はどうなるのかと心配していました。最近では、夜は過ごし易くなり鈴虫の声も聞こえます。やはり秋は来しています。芸術の秋を楽しみましょう。

※半折 $\frac{1}{2}$ 横

の出品票

は作品の

左下に貼

って提出

下さい。

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 枯桑も天の風を知る (古樂府)
葉の落ち尽くした桑でさえ、空ゆく風の寒さを知っている。



次号予告「密雪映寒燈」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 枯桑も天の風を知る (古樂府)
葉の落ち尽くした桑でさえ、空ゆく風の寒さを知っている。



次号予告「密雪映寒燈」

吉田成美先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

□ 淑質 (後漢書)
善良な性質。



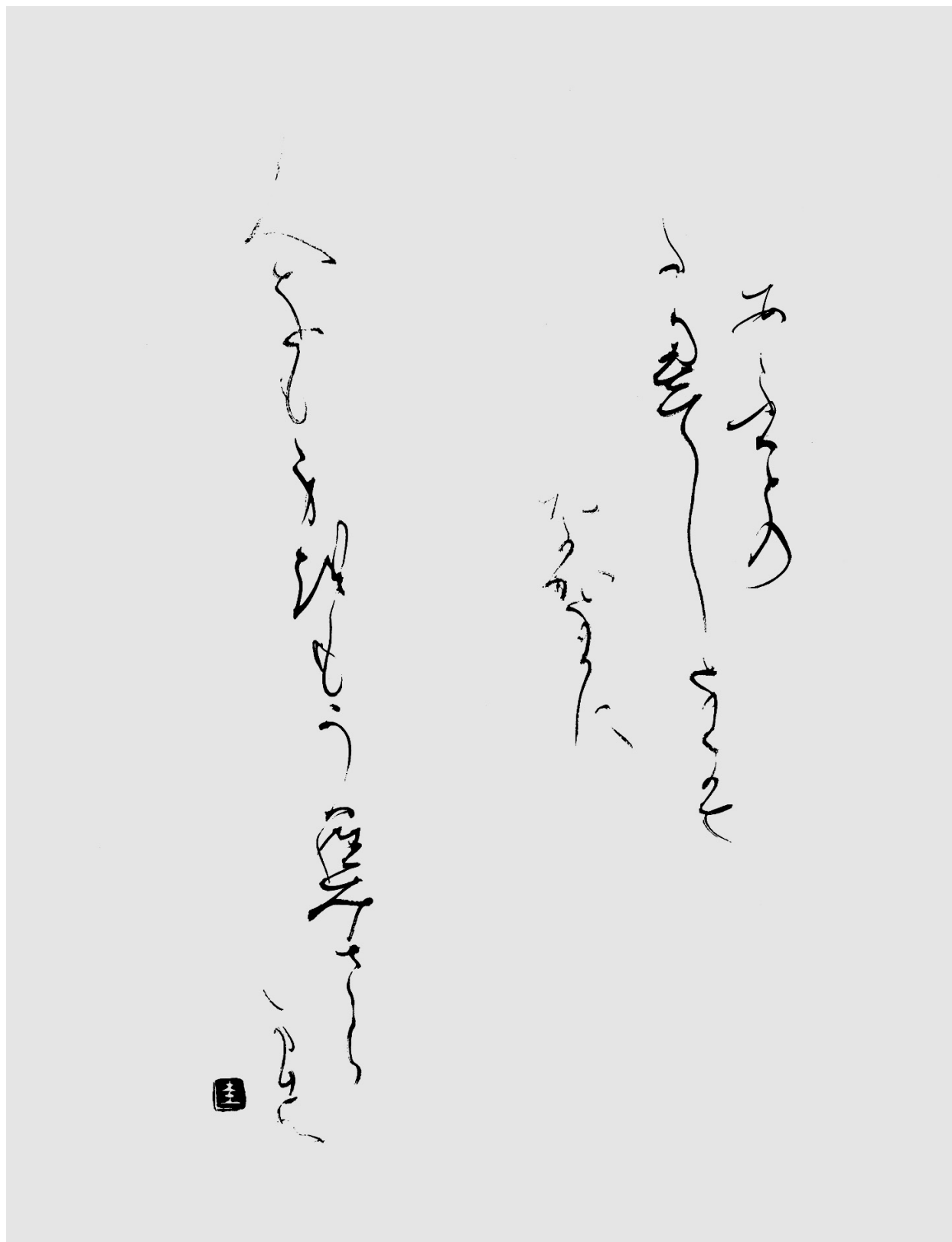
半紙随意参考手本 —10月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△仮名▽

あふことの たえてしなくは なかなかに 人をも身をも 恨みさらまし

□ あふことの 多^た盈^えてしなく盤^は なかなかに 人をも身^み越^をも う羅^らみさら万^ま志^し



舟尾圭碩先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△詩文書▽

「秋の瞳」 秋の日の 心のなかに 花がさいた △八木重吉の詩▽

※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)



（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

△臨書▽
字形・筆順に気をつけ、緩急の変化を心掛けて書こう。



「義之頓首」

吉田成美先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

顧問	相談役
参与	常務理事
会長	株式会社
社長	代表取締役
議長	秘書課
書記	監査報告
銀行	事務局長
商事	営業所

姓 号

△実用書▽

顧問 相談役 参与 常務理事 会長 株式会社
 書記 監査報告 銀行 事務局長 商事 営業所
 社長 代表取締役 議長 秘書課

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文▽

紅葉の季節を迎え 野山はすっかり秋色です 華やかな景色の中 黄葉の銀杏並木を
一人で歩くとロマンチックな気分です 秋の深まりを憶えます 喜代

紅葉の季節を迎え 野山は
すっかり秋色です 華やかな景色
の中 黄葉の銀杏並木を一人で
歩くとロマンチックな気分です
秋の深まりを憶えます
喜代

伊良子 喜代先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

△暮らしに役立つ書▽

書言

日増しに秋が深まりますね。夏に頂いた
手づくりの柚子胡椒、香りがよくとても
美味しかったです。暑い季節にも大活躍
が、たが、これからは温かい鍋物などで、益々
出番が増えそうです。
先日、友人から柚子胡椒を使った珍しい
メニューを教わりました。とても簡単で
美味しかったです。レシピを同封します。
また、感想など聞かせてください。

野のある便箋に書いてみよう。

△26cm×18cm▽

紙質は自由。

・「手先を使うと脳が活性化する」というのは良く耳にする話ですが、「慣れない事」「新しい事」も脳に良い刺激となるそうです。今年も残り三ヶ月…。まだ三ヶ月!!と考えて、やり残した事を、今から始めようと考えています。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵頭白慧先生書

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

世界の子

小学4年

火山ばい

小学3年

カナリヤ

小学2年

ほん

ようねん・小学1年

夢の旅路

中学2・3年

紅葉狩り

中学1年

創造力

小学6年

強い信念

小学5年

秋永春霞先生書

△条幅¼Ⅱ四尺画仙紙半折¼△：68cm×17・5cm▽

ようねん・小学一年

次号予告「は
る」

ほん

□「ほ」の四画目は筆だけをまわさないように気をつけましょう。「ん」はのびやかに。

小学二年

次号予告「おみくじ」

リカ
ヤナ

□「ハネ」「ハライ」「トメ」のちがいに気をつけて、直線的に書きましょう。

坂 元 紫 香 先 生 書

小学三年

次号予告「馬
」

火山

□文字の中心に気をつけながら、左の「ハライ」、画の接するところをよく観察しよう。

小学四年

次号予告「学
問」

世界

□文字の字形と大きさに気をつけ、「世」は幅広く、「界」はタテ長にバランスよく書こう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学五年

次号予告「親友」

信念

□「信」のつくりの横画の長さと巾に注意し、「念」は「今」が大きくならないように。

小学六年

次号予告「情熱」

創造

□「創」は二画目の線の方向に注意して、「造」は最後の「しん」による「ノ」をのびやかに。

秋 永 春 霞 先 生 書

中学一年

次号予告「花鳥風月」

紅葉

□行書には点画の省略や筆順の変化などがあります。「紅」は糸、「葉」は省略と筆順に注意。

中学二・三年

次号予告「飛梅」(行書)

旅路

□「へん」とつくりのバランスに注意し、筆順・点画の省略、右払いの「トメ」に気をつけて書こう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学二年

段 級				
氏 名				
	何	帰	大	
	か	り	い	か
	書	ま	そ	え
	き	し	ぎ	る
	ま	た	で	く
	し			ん
	た	紙	家	は
		に	へ	

①上より②はねる
③つづける④はねる
⑤家
⑥リ
⑦リ
⑧リ
⑨帰
⑩何
⑪何
⑫何

ようねん・小学一年

段 級				
氏 名				
	ジ	一	一	手
	ャ		天	を
	ン	ニ	ま	
	プ	三	で	つ
	し	と		な
	ま		と	い
	した		ど	で
			け	

①上より②はねる
③みじかい
④天
⑤ミ
⑥シ
⑦ジ

坂元紫香先生書

小学四年

段 級				
氏 名				
	ある	秋	の	こ
	と	二	三	日
	雨	が		
	ふ	り	続	い
	た	そ	の	間
	ご	ん	は	
	外	へ	も	出
	ら	れ	な	く
	て	あ	な	
	の	中	へ	し
	ゃ	が	ん	で
	い	た		

①上の横画より短い
②糸
③糸
④糸
⑤結
⑥続
⑦門
⑧門
⑨門
⑩門
⑪中
⑫出

小学三年

段 級				
氏 名				
	お	父	さ	ん
	は	白	い	た
	す	き		
	を	か	た	か
	ら	な	な	め
	に	か		
	け	日	の	丸
	の	は	た	に
	お	く		
	ら	れ	て	列
	車	に	乗	っ
	た			

①あいだを
②あける
③はらう
④はねる
⑤左右に長く書く
⑥とめる
⑦父
⑧列
⑨列
⑩列
⑪乗
⑫乗

坂元紫香先生書

小 学 六 年

田んぼが、詩に書かれた田んぼの
 ように、かがやいて見えましたよ。
 と、昔の教え子たちが言う。苦しい
 農作業の中に、楽しさを見つける。
 エ夫することに、喜びを見つける。

小学五年

局地的な天気の変化も予想がみずかしいものです。日本は、四方を海に囲まれている、さまざまな風がふきます。また、地形の変化に富んでいます。

小 畠 秋 聲 先 生 書

一 般 (A)

きぬに打つ音が星空に響く。昔はそれ
が深まる秋を告げる声であった。しか
し今、騒音が季節の音を奪うて行っ
た。騒音はまた同時に、季節の音に対
する私たちの感性も奪いつゝある。

中学

一般的には、家を出るときに、玄関で靴を履くが、ぼくの場合には、靴の代わりに車いすに乗る。なんの違もない。「障害者」を生み出しているのは、紛れもなく環境の不備なのだ。

小 畠 秋 聲 先 生 書